

令和4年度第2回静岡市立登呂博物館協議会会議録

- 1 日時 令和5年1月25日(水)午後1時15分から午後3時15分まで
- 2 場所 静岡市立登呂博物館 1階 登呂交流ホール
- 3 出席者 (協議会委員)
堀切 正人 会長、渋江 かさね 委員、伊熊 修 委員、
海野 美枝 委員、木村 貴子 委員、木山 克彦 委員、
野田 修 委員、弓削 幸恵 委員(全8名)
(事務局)
高田登呂博物館長、梶山副主幹、宮崎主事、渡邊主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事記録 (1) 登呂博物館館長挨拶
(2) 令和5年度の事業予定
(3) 令和4年度の事業報告(秋季イベント)
(4) 議題
「地域住民が愛着をもてる登呂遺跡・登呂博物館にするための登呂まつりなどのイベントを通じた地域との関わり方」
- 6 議事内容
事務局 開会
高田登呂博物館長 開会にあたっての挨拶
事務局 令和5年度の事業予定
令和4年度の事業報告
議題

【事務局説明】

堀切会長 委員に対し、質疑があれば発言するよう依頼

(堀切会長)

ただいまの令和5年度企画展の案と遺跡内の道の整備について、委員の皆様からご質問、ご意見をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(伊熊委員)

令和5年度の企画展を企画する段階で、私も歴史が好きなので、市の歴史博物館もオープンして「どうする家康」も始まりましたし、そういった意味で、今、市の歴史博物館の棚とかパンフレット、色々なチラシをもらいますけど、登呂遺跡があまり入ってない。例えば、企画展でもそういった市の歴史博物館と連携や打ち合わせ、せっかくの機会なのでどうする家康に便乗した方がいいんじゃないかなと。ちょっと遠いけどね。そういう意味でせっかくの機会、去年も感じたのですが、今年も企画展「アンダー・ザ・駿府城」もあ

るんですが、これも被るような気もしない、内容が分からないので、その辺も他の博物館との連携とか企画を進めるうえで、そういった進め方を少し教えていただければ、また協議会で何か皆さんも確認したいところだと思います。よろしくお願いします。

(事務局)

おっしゃるとおり歴史博物館ができてドラマ館ができて、NHKでも放送が始まりますので、連携を強化してきましようということで、歴史博物館の課長、館長、学芸員とも打ち合わせは始めているところですが、具体的に何をやるかがまだ確定していませんので、これから詰めていきたいとは思っております。せっかく登呂のチラシがないというのも、一応送付は展覧会ごとにさせていただいているのですが、それだけでは目が届かないことが今分かりましたので、一緒に分けてもらうように無理やりと言っては失礼ですけど、一緒に静岡市の中の江戸時代から登呂から始まりという形でも関わり方はたくさんあると思いますので、そういった地道な努力はより強化してやっていきたいと考えています。

(堀切会長)

一つのアイデアですけど、企画展のチラシの中にお互いの市の博物館、美術館の企画展のちょっとした案内、館名と展覧会名と会期くらいでいいと思うんですけど、お互いの企画展のチラシにお互いに入れ込むという手もあると思います。県と市と違うのですが、県立美術館と静岡市美術館は、そういう形でチラシの隅にお互いの企画展の情報を入れるチラシを作っているんですよ。今もやっているはずですけど、そういう手もありますので、登呂博物館、歴史博物館、静岡市美術館、芹沢銈介とか、あまり入れ過ぎるといっばいになっちゃうかもしれませんが、タイミングが合えばチラシに入れ込むみたいな手もあるのかなと思いますけど、またご検討ください。

(事務局)

とてもいい案だと思いますので、スペースに問題があるとは思いますが、トロペーだけでも、何かしら入れ込めるような工夫はできたら実現したいなと考えております。ありがとうございます。

(堀切会長)

県立美術館と静岡市美術館はやっていますのでできるとは思いますけど、無理のない範囲でご検討いただければと思います。他に委員の皆様から、令和5年度、今年度に関してございますか。またありましたら随時ご発言いただくこととします。続きまして、今年度の事業実施報告について事務局からお願いします。

【事務局説明】

(堀切会長)

今年度の事業報告について、ご質問、ご意見等ございますか。

(事務局)

先ほど、祭殿見学会についてご報告をさせていただいたのですが、祭殿見学会の企画や当日もですけど、委員の伊熊先生に企画の段階から色々ご相談、ご協力をいただきまして、当日も復元の琴をやったり、伊熊先生がお持ちの楽器も祭殿にお持ちいただき実際に実演をしていただいたり、そういったご協力をいただきました。是非、そのときの感想などを含めてお聞かせ願いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(伊熊委員)

私も登呂まつりに協力させていただきましたけど、そのときは台風15号の被災で、私前日まで隣の登呂5丁目のボランティアをやっていたんです。静岡大学の学生たちと「やらざあ駿河」というボランティアグループがあるんですけど、その隣でやっていましたので、終わってからもずっと10月いっぱいはまだありましたので、畳とか水に浸かったものを隣の下水処理場に運ぶだけですけど、そういった中でお祭りをやるのはいいのかなと半分腰が引けていて、台風15号を意識しながら、借りたリアカーが登呂の3丁目と5丁目の自主防の会長さんから借りているんですよ。しかも、登呂の公民館にリアカーを置いて毎日その横を通って行く、そういうギャップがあってちょっと腰が引けていたんですけど、いざ蓋を開けてみると、みんなすごくお祭り騒ぎで、なんだ、みんな楽しみにしていたんだなと。私は祭殿のお手伝いをしましたので、祭殿ってなんだろう、しかも、今回公開ということで、せっかく来てくれた人に祭殿の良さとかポイント、先ほど衣食住といった住居、倉庫もネズミ返しで有名ですよ。水田もある。では、なぜ祭殿があるのか。そこを少しこだわって、やはり祈りが大事だと。企画展もやっていましたので、企画展でやっている展示物と、今なぜ祈るのかというのを短い間ですけど紹介しながら、ここではお祈りをした、しかも、古代の琴もここで発見された。祈りをしていたのではないかと、そういった地元のここでしか説明できないことをできた、企画展で琴見てねとか。実は、祈ることは今も繋がっていて、浅間神社では稚児舞とか、同じ小学生が舞を舞っていて繋がっているよと。それとか、ケイセイ遺跡の人形もありました。ああいう人形って今も実は6月の夏越大祓という輪くぐりさんで人形にかいてありますよね。あれの原型ではないかとか。地元と繋がった、しかもケイセイ遺跡でそういうもの出ているよとか。ここで地元の話を中心に紹介をしました。実際、実演をやると、今雅楽のことで色々ちょっと実演しましたけども、これが6,000円のプラ管、こっちが100,000円の能管、音の聴き比べをして格付けチェックみたいな、色々試行錯誤しながらやりましたけど、結構興味を持っていましたよね。そこに来た人達を楽しませたということで、ただあくまでも祭殿の魅力がどうしたら伝わるか、伝わったかどうかわかりませんが、そういった意図で参加をさせていただきました。これからかなと思います。色々実験しましたということです。

(堀切会長)

個人的に興味があるので質問させていただきますけど、登呂まつりが終わったあと振り返りのワークショップをやられたということでしたけど、どんな感じだったか教えていただけると。まちづくりワークショップとかで私も参加することがあるんですけど、なかなか面白い意見が出たりするものですから、ご紹介いただければと思います。

(事務局)

登呂まつりですけど、市の方向性と地域住民の皆さんの方向性が色々分かれているのが分かったなというのが結論です。町内会の皆さんの中でも、今まで基本的には一部の意見しかあがってこなかったんですけど、町内会皆さんの意見を聞くというのが非常に今回は良かったかなと思ひまして、例えば、登呂まつりをもっと大きくしたいという意見があったり、あとは、地域自治体のお祭りなので、そんなに大きくしちゃうとやっぱり外部から色んな人が入ってきて、地域主体のお祭りじゃなくなっちゃうのではないかという意見もあったりしたので、そこを来年度以降、来年度だけではできないと思うので、中長期的に登呂まつりのあり方をどうしていったらいいのかというのを、登呂博物館としても考えなければいけないと改めて感じた次第ではあります。協議会の海野さんに参加していただいたので、それに関して意見や感想をいただければなと思います。よろしくお願ひします。

(海野委員)

宮崎さんがおっしゃったように、登呂まつりを今後どう残していくかというところで、ニーズというか時代の変化に合わせて、変えて残していきたいというご意見と、どうなっちゃうのか、今まで大事に地域の方たちがお子さんの成長を喜んでいるお祭りだなどすごく感じるの、そういった面がなくなってしまうんじゃないか、寂しさみたいな感じで、変えていきたいところと変えていきたくないところで、お一人お一人の思いがすごくあるなというのが伝わってきました。

もう一点は、学生さんたちがすごく参加してくださったことで、高齢化されている実行委員さんで先が不安だったんですけど、若い方たちの意見とか、やっぱり熱意を感じて、若い人たちに引き継いでいかないとという、いい意味の危機感みたいな雰囲気変わったかなと感じました。

一応、静岡市として駿河区の代表となるお祭りを何かというところで今焦点が当たっている部分で、個人的には実行委員会で今まで続いてきたことが素晴らしいことだと思うので、その主体が変わらずに続けていけるような方法が、これから年度、年単位で検討していくことができることによって、地元の方たちが大事にしてきたお祭りをどう進化、次に繋げていけるかを地元の方たち主体で考えていく時間がすごく必要だなと。学生さんたちはやはり卒業されていくと関わりが薄くなってしまふので、そのもったいなさと、どういうふうに効果的に参加していってもらえるかというところは、近々何か解決できる方法はないかなと感じました。以上ですけど、何か具体的にあれば言っただけければ、そのときの様子とかはお話しできます。

(堀切会長)

登呂まつりは、2日間で来場者数が2万人ということですが、キャパ的にはどうですか。限界ぐらいなのか、まだ余裕があるのか。

(事務局)

コロナ前は3万人くらい来ていただいていたので、まだ余裕はあるのかなというところですが、見た感じはやはり地域の学校さんがステージで踊ったり吹奏楽をやったりしているときはすごく人が来ているなというのが印象的でした。

ワークショップで学生さんを募集したんですけど、今年に関してはボランティアをやってくださっていた静大生の方と、静大祭を11月くらいにやっているんですけど、静大祭実行委員の方に参加していただいて今年は開催したんですけど、来年度以降がボランティアの大学生に関しては卒業してしまうので、人数が足りなくなるかなというところもありまして、学生さんの募集の仕方、どのようにすれば集まってくれるのかなというの、委員の皆さんにもしよろしければ意見があればご教授いただきたいと思います。

(堀切会長)

学生をどう集めるということに関しては、ハッピートロウィンでも、うちの学生が色々関わらせていただきましたので、そういう大学の研究室ごとで一本釣りしていく感じですね。そういう連携の仕方です学生をかき集めるという手はあるかなと思います。私のところでご協力できるのであれば、また協力させていただきます。

登呂まつりのこと、それ以外のことでも結構ですので、委員の先生方ございますか。それぞれ一つ一つが非常にいい活動をされていると思うんです。何かお気づきになるようなことはありますか。

(弓削委員)

ナイトミュージアムの228人の構成はつかめていますか。もしよかったら教えていただければと思います。

(事務局)

228人ですけど、芹美で同じく夜間開館ということでライトアップ等の展示をやっていた人が流れてきたというのもありますし、あとは、地域のパトロールをしていたんですけど、こんなのやっているんだというふうな地域の方が散歩しているときに、そのままちょっと行ってみるよという人もいたので、地域の人とか、芹美から流れてきた人とか、あとはスルガフェス、トロベークの関係でチラシを見て来ていただいた方が主になるのかなと思います。

(弓削委員)

先ほど、夜のこの写真がとても良くて、こちら辺がストロングポイントになっていくか

など感じたので、どういうふうに伸ばしていくのかというところでヒントになればと思います。質問しました。ありがとうございました。

(事務局)

先程、伊熊委員からもありましたが、台風により広報を市全体で控えていて、登呂まつり、ナイトミュージアム等のイベント情報をホームページやツイッターで広報できなかったのですが、逆に広報をしなくてもこれだけいらっしゃったのが驚きました。今後はストロングポイントにも十分なり得ますし、昨年もナイトミュージアムをやっていたんですが、住居周りに小さなろうそくを立てたような小ぶりの感じでやっていて、今回初めてこのように住居を照らしていただく形で実現できて好評でしたので、その辺は広報していければと思っています。ありがとうございます。

(弓削委員)

非常に有意義なプログラムがこんなにいっぱい出されていたのは、本当にいただいた資料には全く想像がつかず、これ入れてくれても良かったような感じで、素晴らしいことが本当にたくさん展開されていて、今日質問しようと思っていたことが解決されているくらいの印象です。

一つ知りたいと思ったのは、いただいた資料の中で登呂遺跡内、学ぶ内容の中の実際にやった実施例の中で遺跡内のスタンプラリーや謎解きゲームなど、登呂遺跡を散策しながら学べるゲームの企画と書いてあって、これはすごく人気になりそうだなと思ったので、どんなチームでやったのか、実際にどんな人が参加して、どんなだったのか、何かもしありましたら教えていただきたいと思いました。

(事務局)

スタンプラリー等は、基本的に駿河区役所さんの主催でやっていたんですけど、スタンプラリーは、10月8日から10月15日の一週間がスタンプ可能期間で、場所は登呂遺跡、静岡ガス、区役所、アピタなどの駿河区の基本的な、昔はセントラルエリアと呼ばれていた中心街のところでスタンプを押して、3つ集めて応募すると、例えば、贅沢ランチ賞、駿府匠宿の工芸体験賞、旬の味覚賞、用宗のスイーツ賞などをもらえるようなスタンプラリーになっておりました。

当日は、謎解きスタンプラリーという謎解きゲームで、遺跡、スルガフェスの1日で、遺跡内に貫頭衣を着てサコッシュを持った大学生がいるんですけど、その人たちを見つけてスタンプを押すことで何か景品がもらえるゲームをやっておりました。ここでは貫頭衣を大学生が着ていたんですけど、うちのボランティアさんも貫頭衣を着ていて結構間違われることが多発したので、来年度以降の課題かなと思っています。

(弓削委員)

謎解きみたいな仕掛けが、貫頭衣を着た大学生からあったという感じですか。そこにや

りとりがあったのですか。スタンプを貰えばよかったのかな。

(事務局)

基本的に、スタンプラリーはスタンプをもらうだけで、謎解きゲームは交流ホールに「謎解き探偵のジェリー」がいるんですけど、コラボで交流ホールで迷路みたいなものを行って行っていました。

(弓削委員)

まだここに出てないけど、実は色々なことがなされているという確認ができました。ありがとうございます。

(伊熊委員)

協議会で色々議論をして、今のナイトフェスタも非常にいいイベントだと思いますので、ぜひ続けてほしいのですが、経費的に夜間は結構掛かるでしょ。お金というか職員の人員費も時間外手当も。

正月早々、登呂の特集をやっていただいて、この中で吉野ケ里遺跡は8億円、それに対して登呂遺跡は6千万円。僕はこの記事を見て、8億円かけて70万人に対して、6千万円で20万人くらい。登呂遺跡の勝ちかなと思っていますけどね。ただ、絶対粋よりも本当に必要な経費、こういうナイトミュージアムみたいな経費は毎年やれるんですか。特別なトロベークという駿河区の予算、どうなんですか。特別な予算なのか経常予算で来年も同じようにやれるのか確認をしたいです。

(事務局)

今年度のナイトミュージアムにつきましては、ライティングとか照明のことを専門にされていらっしゃる方が登呂遺跡にとっても協力的で、地域住民の人たちにここに来てもらいたい、親しみのある憩いの場所にしたいと思ってくださっていて、今回その方とこういう形でやれたので、今後もさらにブラッシュアップしてやりたいと考えております。

(伊熊委員)

是非、頑張ってください。駿府城のライトアップが始まりましたけど、信じられないような予算でやっていますので、その10分の1でいいと思いますので、是非、毎年やっていただきたいと思います。

(堀切会長)

続きまして、今回の議題である地域住民が愛着を持てる登呂遺跡・登呂博物館にするための登呂まつりなどのイベントを通じた地域との関わり方について事務局から説明をお願いします。

【事務局説明】

(堀切会長)

それでは、今の事務局の説明を踏まえたうえで、この議題について皆様から活発なご意見ををお願いします。

(弓削委員)

今回、事前にいただいた資料が非常にわかりやすく、自分がどんな形で何をお伝えすればいいかなと考えまして3点持ってきました。皆さんのお手元に谷津山検定というのが一冊あると思います。これは、まちなびやができて16年、当初のころにスタッフと一緒に作った物です。それから発行物の参考に清水区のこどもクリエイティブタウンま・あ・るの資料をたくさんもらったので持ってきました。あと、まちなびやでやった地域情報をスマホで発信する最新の町探検ゲームの企画の資料をお持ちしました。何をお伝えするかというと、いただいた資料の中の学ぶというところで、体験を通して学びへどう結びつけるかと、学校でも先生よくありますよね、体験が学習とどう繋がるかとか、学校の場合は指導要領も教科書もあるし、それらとの兼ね合いを考えての体験に落とし込んでいると思うんですけど、こちらの場合もやっぱり骨が必要だと思うんです。なので、登呂遺跡、博物館で子どもに限らないと思うんですけど、何を伝えていくことが大事なのかのテキストみたいなものがあつたらいいのかなと思ったんです。そういうところを踏まえて、の中でこの内容については体験と連動することが効果的であろう。じゃあ、どんな体験にかみ砕いていこうかというところが必要なのかな。なので、今もうすでにこれだけのたくさんの体験があるので、逆に体験の中から登呂とどうやって結び付けたいだろうかというのを、聞いたところチームもあるし、ワークショップをやる雰囲気もあるので、何回もワークショップやつたらいいと思うんですよ。素人がみんなでやったら手作りになると思うんです。すごく有名な先生に全部を監修していただくんじゃなくて、これだけ動いている人がいるんだから、手を変え品を変え関わってくれる皆様から吸い上げてそれをまとめる。そのほうが手間と時間がかかって大変ですけど、でもできると思います。この谷津山検定というのは、まちなびやのスタッフで、こういうのが好きなスタッフがいたので、コツコツと色々なジャンルについて調べたし、自分で絵を描いたりして作ったんです。これは助成金をとって作りましたので、そういうこともできるんじゃないかと思います。さっきのお話で、ここを光でアピールするような味方がいるわけですから、呼びかければ、こういう学習教材と一緒に作りませんかみたいなことで呼べば、もしかしたら集まる人がいるかもしれないです。これはすごく皆で学びながら作っていくという意味では大変面白いし、いい機会になるんじゃないかなと思います。

それから、子ども達にもPRする学校へのPRがどんなイメージなのかなとは思ったんですけど、一つ紙ベースでやるのであれば、楽しめて子どもが参画している物、この「まああるんだ！」今号については、イラストは子どもたちが描いてくれたよと書いてあるんですよ。トロペーがいるじゃないですか。だから、自分が描いたトロペーが載っているかも

というだけで見ると思うし、予算との兼ね合いはあると思いますけど、外注すれば、印刷物はそんなに高くないので、年に一回でもカラーで楽しいものを作っていければ、チラシ代も予算があると思いますけど、やりよう次第で色んな人が参画してきていると醸せるものを生み出せるといいんじゃないかなと思いました。

登呂まつりの振り返りもワークショップをされたという話だったので、それを公開したらいいじゃないですか。館内にこんなことやりました。その資料が本当にほしかったですね。結局どうだったのかというのが見える化されると、こんな動きがあるんだなとやっぴりわかるし、それは私も参加できるのかなというところに繋がる可能性もあるんじゃないかなと思いました。なので、端的にペーパーにまとめて回覧板とかで地域の人達に見てもらうこともできるでしょうし、やりよう次第だなと思います。この大・小まち探検ゲームというのは、共同パイロット事業でまちなびやが相当力を入れて取り組んではいるんですけども、とはいえ、そんなに戦力が多いわけじゃなくて、懇意にしている大学生さんたちにすごくサポートしてもらって、一緒に街を歩いて、取材のときには子どものサポートをしてもらって、その音声を使った仕組みなんです。だから、同じことをやる必要は全くないと思うんですけども、これをやるためにまちなびやでは毎月一回大学生とミーティングをしています。1時間から1時間半くらい、まちなびやなんで、お菓子があるからそういうのを出して、楽しく和やかにその場に来ることが一つの自分にとってのプラスの内容がちょっとはあるかなくらいにしたいなと思っているんです。これに参加してくれた大学生の感想として、静大と家を通学しているだけで地域は知らなかったけど、改めて静大がある大谷地域のことを学ぶ機会になったという意見が一番多かったです。住んでいたとしてもコロナがあって大学とバイト先と自宅の三角形ばかりで、すごく外に出にくいような雰囲気があったので、そういう点では知る機会になったという意見があったので、それこそ協力してくれる研究室の参加してくれる人がいるのであれば、そういう人をとにかく大事にして今関わってくれる人を尊重していければ、すごく次のステップに繋がるんじゃないかなと思いました。

(堀切会長)

すごく具体的なお提案でしたのでご検討いただければと思いますけど、何か今のことについて事務局からございますか。

(事務局)

やはり何かクイズとか、そうしたものを取組みながら楽しみながら学べるというところで、とてもいい資料をいただきましてありがとうございます。また博物館のポスターやチラシはやはり自分たちでデザインをやっているんですけど、他の人にも色々デザインしてもらおうことで、とても効果的なものがチラシの中にもできるんだなと改めて感じました。どうもありがとうございます。

(事務局)

ご意見の中で登呂まつりのワークショップについても、ワークショップの内容とかを展示したほうがよいのではというご意見をいただきましたが、現在のところ、隣の情報コーナーでワークショップに合わせてなんですけど、秋の企画展で登呂まつりの展示をしましたので、それを縮小する形で今はこれよりも前の登呂まつりの写真であったり、登呂まつりの略歴についての展示をさせていただいておりますので、この展示をワークショップの成果報告の内容に少しずつ変えていったり、あとは、今年のお祭りの写真を地元の方に提供をお願いしているところなので、展示をしていければと思っております。

(野田委員)

来年度の計画、本年度の実施内容を伺って、博物館という性格上、正直申し上げますと、聞いていて結構難しいよなという思いを持ちました。歴史とかそういったものに興味があるコアな層にはすごくバッチリはまる企画だと思うんですけど、あまり関心のない層にはなかなか響かない部分があるんじゃないかなと正直思います。例えば、登呂まつりはここの主催ではないですけど、私、駿河区の学校には一番最初に行ったのが隣の大里中学校、平成の始めの頃ですけど、大里中の子は、隣の学区だけ登呂まつりに行かないんですよ。20年くらい経って高松中学校に行って、登呂まつりがあることを初めて知ったんです。夜間、補導にも出たりしたんですけど、現実的にはそういう状況なのかなというのがあります。登呂まつりの云々って話は厳しい言い方ですけど、前提を捉え直す必要があるのかなと思います。それから、4つの要素はどれも重要なところですけど、今言った状況を踏まえると、この4つの中のどこに焦点を当てているのかが明確ではないというか、どうしても今の発表を聞くと、たぶん2と3に焦点が当たっちゃっているのかなと思います。それは、やはり博物館の性格上のものだと思うんですけど、今言った前提条件を踏まえると、やはり2、3も大事だけど、1の親しむがすごく重要になってくるのかなと思います。

今日の発表でいいなと思ったのは、ライトアップの写真を見たら行ってみたいなと僕は思いました。不思議だったのが、登呂まつりの次の週にやっているんですよ。あれを登呂まつりの時にやってくれたらいいのになって。そうすれば、僕10年前、登呂まつりの補導のときに踏み外してびしゃびしゃになることはなかった。今年、ああいうことをやってすごい写真見て素敵だなと思うので、もし例えば、来年はそこを一緒にやっちゃうのもある意味可能なのかな。そうすると、お祭りをやっていてライトアップをしていて、一つのいい景色になるのかなと思います。

実は、年末に子どもの関係で札幌に行ってきたんです。札幌は今、大通公園でイルミネーションをやっているんです。テレビ塔でそのときはクリスマスマーケットをやっているんです。そうすると、イルミネーションを見ながら寒い冬の大通りを歩いて、でも最終的にイベントのところに近づくと楽しくなった感じかな、そんな演出も必要なのかなと思いました。

それから、体験のところ、すごく失礼な言い方になってしまうけど、貫頭衣を着るとか、火起こしの体験ができますよと書いてあるんだけど、僕の正直な感覚だと、だから何なんですよ。火起こしをしたらその次の先のことを何かほしいかな。例えば、貫頭衣、白

衣でペイントするのもなかなか面白いかな。だったら、隣の芹沢銈介美術館と何かタイアップできたら面白いじゃんとも思うんです。それも次のステップ、これをやったから何になる。ま・あ・るだと何かやると、物が最終的に残ったりするじゃないですか。そういったところに従来の体験プラスアルファが何かあると嬉しいなと思います。

最後ですが、学校に関しては、よくあるのが色々な関連の部署が、校長が集まる校長会に来てチラシを分けて説明するのがあるんですけど、ちなみに、高松中学校はコミュニティースクールということで小中一貫で地域を交えながらと言っているんですけど、昨日報告会の下準備の会をやったんですが、高松中、森下小、富士見小、南部小の4校で一年間に外部に出ていく、または外部の方に来てもらうのがどのくらいあるか調べたんです。1月になる前の段階で、4月から12月、4校で130いくつあるんです。少ないのは高松中が、中学校がほぼほぼ12、3だったんですけど、それでも落としているものがまだゴロゴロあるんですよ。そう考えると、1校当たり50回から60回くらいあるんですよ。そうすると、小学校は1学区6年生までいますから、1年間の間に十何回は外部の人が入ったり外に出て行ったりということをしているんです。その中に協力をということだけど、食い込んでかなきゃならないってことなんです。となると、一般にこうやってお願いしますと言っているだけじゃやはり駄目で、先ほど委員長が言ったように一本釣り、直接出向いてお願いできないとか、そういったことをやっていかないとなかなかそこに割り込むことは難しいかなと思います。例えば、今年、トロベーターウィークをやったんですけど、これは駿河区役所がなんでもいからやってくれというイベントですよ。たまたま駿河区役所の隣に学校があるものだから行きました。せっかくの機会だから小中一貫とやっているから4校で合同で何かやろうよという話になり、美術作品を区役所に展示したんですけど、今思い付きですけど、例えば登呂博物館が一枚噛んで、例えば昔の建物のスケッチをやってもらえないかと言われれば多分できると思うんですよ。そういう使い方は学校はできるかなと思います。あと、高松中学校はしずおか学を各学校やらなくてはならないんですけど、名称が登呂学っていうんですよ。高松中の今の校長が言うコンセプトは、遺跡の上にある学校というコンセプトなので、例えば、トロベーターのイラストであるとか何らかの形であれば高松中学校は喜んで協力すると思います。野田が言っていたと言えはすぐ伝わるとしますので、そんなふうな使い方も一つあるかなと思います。

(堀切会長)

非常に具体的なご提案だったと思いますけど、事務局いかがですか。

(事務局)

今、先生がおっしゃるとおり、私たちは体験ができればしてもらえばいいというところがどうしても先行しちゃうことが多かったものですから、そこで思考が停止してしまうとか、火起こしやって貫頭衣着てというところで終わっちゃっているのかなというのがありまして、私たちがこれからそれをやる効果や、そこに何かあるのかをもう少し歴史的な観点からもしっかり伝えないと、やはり博物館としての意味がないのかなと思っており

ます。

やはり私たちは学芸員という立場の者も登呂遺跡から出てきたものをそのまま説明するのではなくて、エッセンスや本質をしっかりと理解して、それを届ける相手に料理人というしっかりした素材をどういうふう料理して提供するのかわかるまで押さえて、例えば、小学校の子であればわかりやすくとか、大人であればとか、色々な対象に向けて資料等をどういうふう説明して効果的に伝えられるかが博物館としての使命でもあり力量になるのかなと思いますので、今いただきましたご意見をしっかりと私ども博物館で取り組んでいきたいと思いました。ありがとうございました。

(堀切会長)

他にございますか。

(木村委員)

この文章を読ませていただきまして、問題・課題の欄の親しむで、準備などの運営の一部を若い世代にお手伝いしてもらえないか、PTA、子ども会などというPTAという言葉が入っていましたので、ここで私の気持ちを伝えさせていただきたいと思うんですけど、今PTAが任意加入ということで、自由ですよということを強く強調するような形になっていまして、活動自体がままならない学校が多くあります。幸い高松中学校はPTA活動ができませんといふことまではいってなくて、一定数の保護者の皆さまのご協力のもとに学校行事とかのPTA活動の行事などはやっていますけど、なかなかそれ以上のことができないというか、最低限度の今あるものを回してだけでギリギリの状況がここ数年ずっと続いています。本当は地域のお祭りに親子で参加とか、学校のみんなで協力して何かできないかという気持ちを持った人がたくさんいると思うんですけど、なかなかそれが形にならないのが正直なところじゃないかなと思います。協力はこれからずっと考えていかなければならない難しい問題ですが、例えば、PTAで今までずっとやってきたバザーとかPTA活動のイベントものの会場として登呂まつりを使わせていただくようなことはできないのかなと思っています。というのは、学校でやっているバザーは主に土日が大体開催日になるんですけども、中学校の場合は部活動があるので、学校の施設を使える日にちが限られています。わざわざバザーだけ単体で企画して人が来るのかといったら来ません。じゃあ、何かと同時開催でできますかといったときになかなかうまく合わないの、ここ数年バザーができない状況だったんです。なので、こういう人がたくさん集まる場所で会場を貸していただいて、そこで高松中学校という名前一つ何かできればどうかとこれを見ながら思いました。

あと、私の本当に個人的な意見ですけど、さっき見せていただいたナイトミュージアムのライトアップのお写真がすごく綺麗で感動しまして、いつか私はここでキャンプをしたいなと思っています。火起こしをして食事もできて、最終的にはここで寝袋、シュラフで宿泊体験みたいな形で、弥生の生活を体験するトータル的なものでやれたらいいかなと思いますので、いつか叶うといいなと思いました。

(事務局)

本当に新鮮なご意見をいただいてすごいなと、PTA の状況も普段わからないので聞けて良かったと思います。何かというと町内会や PTA をお願いするのが市役所でよく出てくる話ですが、御無理なこともありますので、バザーの会場というのはすごいなるほどなと思ったのですが、登呂まつりでも可能性はありますし、登呂まつり、スルガフェス、ハッピートロウィン&はぴままというイベントをやっていたんですけど、小さなテントで小さなお店を出してやったりして、この会場を使っていたいています。キッチンカーを呼んでみたり、移動図書館に来てもらったりイベントが色々集まればバザーもお客さんが集まって、出す方も来てくれる方も交流が始まるので、とても実現できたらいいなと思いました。ありがとうございました。

(事務局)

ライトアップの件でありがとうございました。先ほど先生もおっしゃっていただいたんですが、今回タイミング的にちょっと後になってしまったんですけど、来年は、できれば登呂まつりの期間中はわからないですけど、登呂まつりの前とかに登呂まつりを盛り上げるためにやりたいねなんて話もいただいているものですから、もう少し長い期間登呂まつりを地域として盛り上げていくような手法とか手段として使っていきたいと計画として出てきたところです。ご意見ありがとうございました。

(事務局)

野田委員のライトアップが登呂まつりの日ではなかった話で、その次の週のトロベアウィークが登呂まつりが始まりまして、一週間トロベアウィークがあって最後にスルガフェスで締めますという内容に合わせて、登呂博と芹美の夜間開館をスルガフェスの最終日の夜にということをやってみました。登呂まつりが夜 8 時くらいまでやっていたので、明るさの調整とかスルガフェスの場合は 3 時で終わってそこから撤収して、色々な細かな設定の準備を夜に間に合わせてやった結果になりますので、撤収とトラックが入ったり、作業で現実的に結構大変なことが起きたので、そういうことも考えまして登呂まつりにできればやりたいと思いますし、スルガフェスが来年いつやるかわかりませんので、いずれにしろ何かしら素敵なものを提供できればと思います。

(渋江委員)

ご説明ありがとうございました。質問と意見、計 3 点よろしくお願ひいたします。まず、親しむの問題・課題として出されている、担い手に子育て世代がというのは、博物館側としての認識なのか、実行委員会のメンバーからもこういう意見が出ているということなのか、私に分かってなかったのを教えていただけますか。

(事務局)

これは、町内会の実行委員会さんからそういうお話が出ておりました。私どもも実行委員会さんの会合に参加して、そういう雰囲気になったなということを思いました。

(渋江委員)

今、私の前に委員からお話がありましたように、期待されている側としても色々な事情がある、関わるんだったらこういうふうに関わりたいという思いを当然相手先も持っていますので、何かうまく対話をしながら、後継の方がいきなり実行委員という形で関わるのではなくて、例えば、まずは一緒にバザーに誘って参加して、そこから徐々に実行委員会の方にもというプロセスを考えてみるとか、そうしたステップが必要になるのかなと思って聞いていました。これが1点目です。

2点目ですが、登呂まつりワークショップは、登呂まつりをやって振り返って次どうしようかという趣旨で開催されているものですか。すると、参加者は登呂まつりに関わった人だけではなくて、新鮮な視点でも意見をもらいたいとのことで、本学の静大祭委員とかが入っているという理解でいいですか。

(事務局)

そのような理解で間違いございません。

(渋江委員)

そのときに大学生が新鮮な意見を言わせていただくというか、そういう期待で参加しているというのが分かったのですが、そういった層の大学生は確かに定期的に登呂まつりワークショップに参加してもらうようにするのは難しいなと思って、またここでも知恵を考えてもいいのかなと思った次第です。

私が気になったのは、たくさんの方が登呂まつりではなくて、ハロウィンとかにも関わってくれています。祭りの方はジャズで関わったりもしてくれていますが、例えば、そういう方がワークショップにも来ることはあるという認識でいいですか、当事者的な大学生という。

(事務局)

今年は叶わなかったですけど、来年度以降、他の事業でも関わっている大学生とも調整をして、なんとかワークショップに呼び込めるようにしていきたいなと思っています。

(渋江委員)

大学生にイベントに関わってもらう前から、こういうワークショップという色々博物館が関わってやっているものを皆で見直すような会合があるんだけど、あなたたちの意見も聞きたいからよかったら参加してねというのを、すでに前もって言っているようだったら申し訳ないですけど、言っておくと大学生も考えてくれるかなと。なかなか忙しい人なので、結構直前に言われちゃうと忙しいってなっちゃうので、こういうものがあるよという

のを前もって言ったり、ここに大学生の意見を言ってくれることが本当にやっぱり祭りを良い視点で変えていくことになると思って期待しているとか、そういう声掛けとかもすでにしていたら申し訳ないのですが、必要かもしれません。

あとは、個人的なことにもなるのですが、それこそ大学生がある程度、一定期間、親しむ・学ぶ・関わる・発信するということに関わらせていただくことについて、私は社会教育を静岡大学でやっているのですが、うまくしたら何か関われないかということがありますので、また時間がある時にこことは別にご相談させていただけるとありがたいです。

(堀切会長)

事務局から何かございますか。

(事務局)

今回、静岡大学の静大祭の皆さんは登呂と元々はあまり関わりがなかったんですけど、大学祭というイベントを発信していく立場の学生さんたちだと思うんですが、そういうイベントにも詳しいというか、色々と知識や経験があるのかなというところと、ある程度実行委員会の皆さんが一年生、二年生が中心となって世代交代していくようなところで、わりと長い期間、登呂遺跡に関わっていただくことができるかなという期待もありまして、今回アプローチさせていただきました。色々な学生さんから色々な新鮮な意見をいただきまして、私たちも町内会の皆さんも、色々とハッと気づくことがあったように思いました。ありがとうございます。

(堀切会長)

他に委員の皆さんから何かございますか。

(海野委員)

博物館というベースがある教育の部分が、時代と共にすごくエンタメ性が強くなっているのかなと感じて、今、色々授業として取り組まれているところが、そういうふうに着て来ている方向性としてはマッチしているのかなと感じているんですけど、その先に観光に焦点を当てた場合、今年大学を卒業した神奈川の男の子と話をするときがあって、小学生の時か中学生の時だったか確認できてないんですけど、修学旅行と言わずに総合学習的な名前だったと思うんですけど、地引網と登呂遺跡に来ていると言って、なので、登呂博物館は見たことがあるくらいの認識で、その時にやはり先ほど先生がおっしゃっていた体験から何を学んで印象に残ってってもらえるのかというところの、色々なことをやられているので、登呂遺跡、登呂博物館といったら、行った時に何々を学んだね、気づきがあったねとか、自分が学生の時に歴史を学んできた中で、何か残るものが学習プログラムはちょっと大げさですけど、修学旅行向けのものにつなっていくと、今後観光に力を入れられている静岡の業者さんも頑張っているから、そういうところが色々営業をかけてくれると思いますし、是非そういう学ぶというところで子どもの頃にきた記憶が懐か

しい世代がもうすごく少なくなってきてしまっていると思うので、もう一度今の現代に合った学習、せっかく修学旅行とかで足を運んだ時に印象に残るような何かを作っていけたらいいのかなと、これだけのことをやっていることで体験という意味で感じています。

もう一つが、新型コロナですけど、これこそこの地域の強みだと思ったんですけど、先ほどもおっしゃっていましたが、防災とか防犯を絡めた何か地域を話題にした内容の発信というところで、絆が強い地域なので今もきっと皆さん色々な活動をこういった観点でされていると思うので、何か愛着とか大事に思うという意味で防災防犯。ライトアップも自慢になるというのがすごく一番地域の方たちにとっては大事かなと思うので、格好いいとか素敵という以前に子どもたちの自慢になるような発信の仕方や見え方みたいなのも大事かなと思いました。

(堀切会長)

他に何かございますか。

(事務局)

お話の中で、地域や地元の子どもたちにとって登呂遺跡が自慢になるような話がありましたけど、例えば、学校だったり修学旅行だったりお越しいただいた時にどういったものを持ち帰ってもらうかというお話があったと思いますが、現在、登呂博物館で修学旅行などの団体の対応をする際には、基本的に1階のお部屋の体験展示室と2階の重要文化財の展示室と外の遺跡公園で火起こしの実演に何人か体験に参加してもらって、その後に遺跡を周遊するような形での三か所をローテーションして回るようなプログラムを現在組んでおります。やはり後々学校からのアンケートを見ると、もちろん弥生時代のことがわかったよとか色々いただくのですが、やっぱり火起こしとか実際に体験した、自分も他の博物館に行ったことがあるんですけど、特に登呂遺跡の火起こし体験は、本当に火を煙のところまでじゃなくて、最終的に火が燃え上がるころまで実演を行ってございまして、これは実際に他の博物館では最後までやるのはあまり多くないので、特にアンケートを見ても印象に残っているお子さんや先生のご意見が多いのかなと感じております。なので、そういったことも含めると、やはり前にもお話がありましたが、火を起こしてそれがなんなのかということやうまく繋げられるような見せ方や、プログラムのローテーションの仕方や作り方をもっと検討するべきだと感じました。ありがとうございます。

(堀切会長)

個人的な感想ですけど、子どもたちが誇りに思う登呂遺跡、登呂博物館という言葉はいい言葉だなと思います。シビックプライドという概念が大きすぎるんですけど、チャイルドプライドというんですかね、子どもたちが誇れるような場所であるという視点はなかなか良い視点を教えていただけたかなと私も思いました。他にございますか。

(木山委員)

プログラムを見て、また色々と本当にやっていらっしゃって立派だなと思いました。事前資料をもらって、私は大学教員ですので、大学生も参加というところで、普通に考えてしまえば、持続的参加でインセンティブとなるとやはり授業と絡めて、普通の一般授業だとそれは無理だろうというところなので、ゼミ活動、研究室単位の関わりというのが普通だろうなと思っておりまして、それをお話しようかなと思いました。もうすでにやってらっしゃるとのことだったので、おそらく継続する以外ないのだろうと思います。渋江委員もおっしゃったとおり、やはり最初から関わってもらった方がやっぱりいいのだろうと思います。そうしないと、彼らも彼らでアルバイトや授業もあるでしょうしすごく忙しいので、登呂まつりが本番ですよというところを見据えて定期的に関わっていくと。自分たちがこういうふうにやってみたらどうだろうと提案できるような感じで関わるのが一番いいと思うんです。授業は確かに目に見えてインセンティブになるんですけど、弓削委員がおっしゃっていたように、別に授業じゃなくてもこの場所に行ったら色々な人と話ができるよとか、自分の場所を見つけることも彼らにとってみればインセンティブになりえますので、教育の立場からすると目に見えて授業単位ですかみたいな。卒業論文に活かしますかとか、そういうところをインセンティブに考えがちですが、実は彼らはアルバイトだってお金というのがありますけど、アルバイト先でのコミュニティを楽しむというところもありますので、その辺りインセンティブインセンティブと考えずに、いつでも来て君たちのやりたいこととか、そういうのがここで実現できるよと、そういう関わりでいいんだよという感じで構えていかれるとかがなかなかなと思います。ただ、ボランティアさんたちの育成とか運営とかと一緒に、結構大変は大変だと思いますから、人と付き合ってそれが団体になってくるといふことになるので、その辺りは難しいところもあるのかなとは思っています。過去の登呂まつりの記録を残し展示紹介する機会がありましたけど、こちらの問題課題のところ、もうある程度ワークショップのやつはそのありますよということだったんですが、本当に是非やっていただいた方がいいんじゃないかなと思います。60回やっているんで、全然違うのだろうと思うんですよ。今、ロビーでこちらの会が始まる前に過去のプログラムが展示されていたので見たんですけど、すごく自由なんです。2日目はカラオケ大会がありますとか、芸能人を呼んでなんかやっていますとか。というふうになると、今の登呂まつりはすごく一生懸命やっているのですが、すごく教育的だなと。だから、それこそワークショップで終わった後にどういってお話をされたのかということもあると思うんですけども、本当に自分たちが登呂まつりを作っていくんだよというのは、ああいう自由さもあっていいし、今は時代が変わったので、やはり予算があるだろうとか、関わる人も減ってきたからもう少し縮小せざるを得ないよねとか、それは変わっていつて構わないと思うんですけど、そういう振り返りができると思うので、ぜひ展示されたらいいんじゃないかな。それは登呂まつりのときとかでもいいんじゃないかなと思います。61回目はこんな感じですけど、1回目からこんな感じで写真で振り返りましょうとか、そこで今は年を取って主体的には関わらないけど、主体的に関わった時はこんな会場だったんだよというのが見れたりするので、また戻って来てくれるようなチャンスにもなったりするのかな、なんて勝手に思っておりました。質問ですけど、登呂まつりをやるのに企画に制

限があるんですか。例えば、もちろん予算の問題もあると思うんですけど、カラオケ大会はやらないとか、自由だったら大学生とかも最初に呼んでしまって、昔はこんなに自由にやっていたんだから、君たちも好きなことやりなさいよとか、そんなことも言えたりするのかなと思って聞いておりました。

(事務局)

今年度の登呂まつりのプログラムについて実行委員会さんにお伺いしたときには、実際参加される団体様でダンスの団体さんだったりを募っていくそうなんですけど、実際にこの1か月程前に最終的なプログラムができあがるのですが、本当にそのギリギリぐらいまで様々な団体さんがこのステージでこれをやりたいんだけど、というので基本的に自分たちから来ていただいているので、駿河区で例えば30分だけ時間をもらってトロベードンスをする時間をいただいたりもしたんですけども、あと以前のカラオケ大会は過去の資料を見る感じだと祭りの運営にテレビ局が関わっているタイミングでのど自慢大会があったりというような、そのときの参加、構成される組織の色によってある程度メニュー、プログラムも変わっている傾向があるのかなと資料を見ると窺い知ることになります。

(堀切会長)

他に委員の皆様から、これだけはとっといっておきたいとか聞いておきたいというようなことがありましたら、もう時間が長くありませんので、最後のご発言のチャンスかと思えますけれども、ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、皆様からいただいたご意見については、今後の博物館運営に活かしてもらうようにお願いいたします。これで議事を終了させていただきます。司会進行を事務局にお返しいたします。

(事務局)

皆様、本日はお忙しいところご参加いただきまして、皆様のご専門の立場から色々なご意見を伺うことができました。後日もしかしたら改めて、直接委員の先生方にお尋ねさせていただくようなこととか、ご協力していただくようなことがあるかと思えますけど、その際はどうぞよろしく願いいたします。それでは、令和4年度第2回登呂博物館協議会を閉会させていただきます。

今年度の協議会につきましては、今回をもちまして終了となります。次回、令和5年度につきましては、皆様の会の任期が7月の末日までという形になりますので、それまでに一回開催を考えております。

次回もまた日程のご調整等ご協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。では、本日はお忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。これをもちまして閉会させていただきます。どうもありがとうございます。

<閉会>